

日加を結ぶ

アイスホッケー

テリー・オマリー

最近の日本におけるアイスホッケーの
人気は著しい。一九七二年の札幌オリ
ンピック以来、日本はすでに世界「B」
グループ選手権大会を二回も主催し、今
年は堂々三位に上昇した。ヨーロッパ、



ソ連、カナダなどが
らもたびたびチーム
が来日、ファンに妙
技を披露している。
国内チームも六つ(王
子製紙、西武鉄道、
国土計画、岩倉組、
古河、十条製紙、日
軽金)で、試合ごと
に満員の観衆を集
めている。アイスホ
ッケー人口は小学生
から一般まで約一万
人に達しており、今
後ますます人気は高
まるものと予想され
る。

在京二チームのオーナーでもある堤義明
氏の努力に負うところがきわめて大きい。
日本のアイスホッケーには七〇年の歴史
があるが、それは長い間、企業チーム間
のいわば国内ゲームにとどまっていた。
これを「国際化」したのは堤氏の功績で
ある。堤氏は十一年前、父親の会社を引
き継いだ際、スケート・リンクを三つも
っていた。これをスケートだけに使うの
はもったいないということで、品川スケ
ート・センターでホッケー・チームを結
成した。このリンクでカナダは、ある偶
然から、日本のアイスホッケーと強いき
ずなをもつきっかけを作る。

ある偶然とは——。品川スケート場の
近くには、たまたまスカボロ外国伝導会
(スカボロ教会)があり、そこにかつての
アイスホッケーの名門、セント・マイケ
ルズ高校(トロント)を卒業した若いホ
ブ・モラン神父が住んでいた。一九六六
年のある日、モラン神父は品川リンクで
アイスホッケーの練習を見ていて、仲間
に加えてくれと申し出た。モラン神父は
あとで東京西武鉄道チームの選手として
活躍する——。

▼モラン神父



堤氏は後任を探してくれるよう頼んだ。
モラン神父が推せんしたのが、カナダの
オリンピック・ホッケー選手養成計画の
創立者で、当時その顧問をしていたデイ
ビッド・パウワー神父。

パウワー氏が到着し、彼を得た西武チ
ームはめきめき腕をあげて、二連勝をと
げた。堤氏としては、パウワー氏がその
まま西武チームに残ることを希望したが、
パウワー氏は代わりに私をプレイング・
コーチに推せんした。これをきっかけに、
カナダからアイスホッケー選手が続々と
来日するようになる。私が来る前に、オ
ンタリオ州チャサム出身のワカバヤシ兄
弟がすでに日本で頑張っていた。
堤氏の西武チームはあまりに強すぎた
ため、これを二つにわけ、国土計画チ
ームを創設した。ワカバヤシ兄弟の弟メル
(オサム)と私は国土計画に加わり、兄の
ハービー(ヒトシ)・ワカバヤシは西武の
プレイング・コーチとなった。西武には、
オンタリオ州出身のバリー・マッケンジ
ーとプリティッシュ・コロンビア州出身
のダグ・ブキャナンも加わった。チーム
間の競争が激しくなり、他のチームも外
国から「助太刀」を頼むようになる。古
河電機にはバンクーバー出身の二世ケン
・タケウチが入り、岩倉組(北海道)は
今年、アルバータ出身のダグ・ジョン
ソンとワリー・デジャルダンを迎えた。
ソ連と貿易で深いつながりのある王子製
紙は、ソ連ナショナル・チームの元選手、
スターシノフに応援してもらった。
一方、カナダでは、特にプリティッ
シュ・コロンビア大学を中心に、日本の選
手が腕を磨いている。過去五年間に、四
人の日本人選手が、一年づつプリティッ
シュ・コロンビア大学のチームと練習を
積んできたし、夏期には特別トレーニン
グ・キャンプが開かれ、十五人の選手が
参加した。また現在、堤氏はトレーナー
一人を同大学に派遣して、カナダ随一の
アイスホッケー・トレーナーであるリチ
ヤード・ヌーナン氏の指導を受けさせて
いる。(ヌーナン氏は、過去二回の世界
アイスホッケー選手権大会で全日本チ
ームのトレーナーだった。)